

### III 抑うつ尺度と死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無についての結果

抑うつ尺度と死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無について、(1)一週間の就業時間、(2)現在の健康状態、(3)町内や地域の人との交流機会、(4)心配事や悩みなどの相談相手の有無、(5)うつ病になった場合の対処についての5項目についてクロス集計を行った。

#### 1 抑うつ尺度の状況

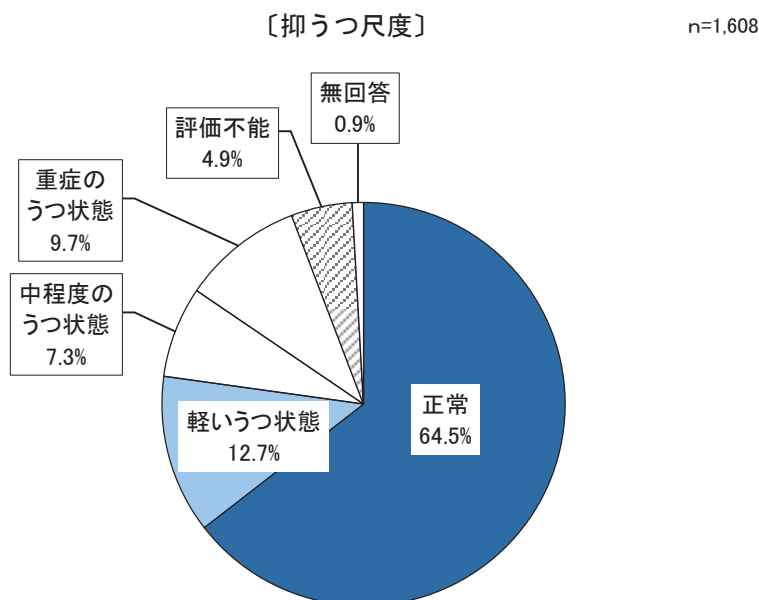
日頃から心身の状況をより細かく分析するため、抑うつ状態の尺度として質問項目にCES-D（日本語版）を用いた。

なお、質問項目のうち、5項目以上無回答がある場合は評価の対象外としている。

\*CES-Dは、簡単に使用できる抑うつ状態の自己評価尺度としてアメリカで開発された手法である。このテストでは、感情要素を「普段はなんでもないことがわずらわしい」や「食べたくない、食欲が落ちた」などのマイナス要素16項目と「他の人と同じ程度には、能力があると思う」などのプラス要素4項目の計20項目を0点から3点の4段階により評価し、その総得点（最高得点は20項目×3点で60点となる。）から4段階（16点未満：正常、16～20点：軽いうつ状態、21～25点：中程度のうつ状態、26点以上：重症のうつ状態）で評価する。

#### 【全体】

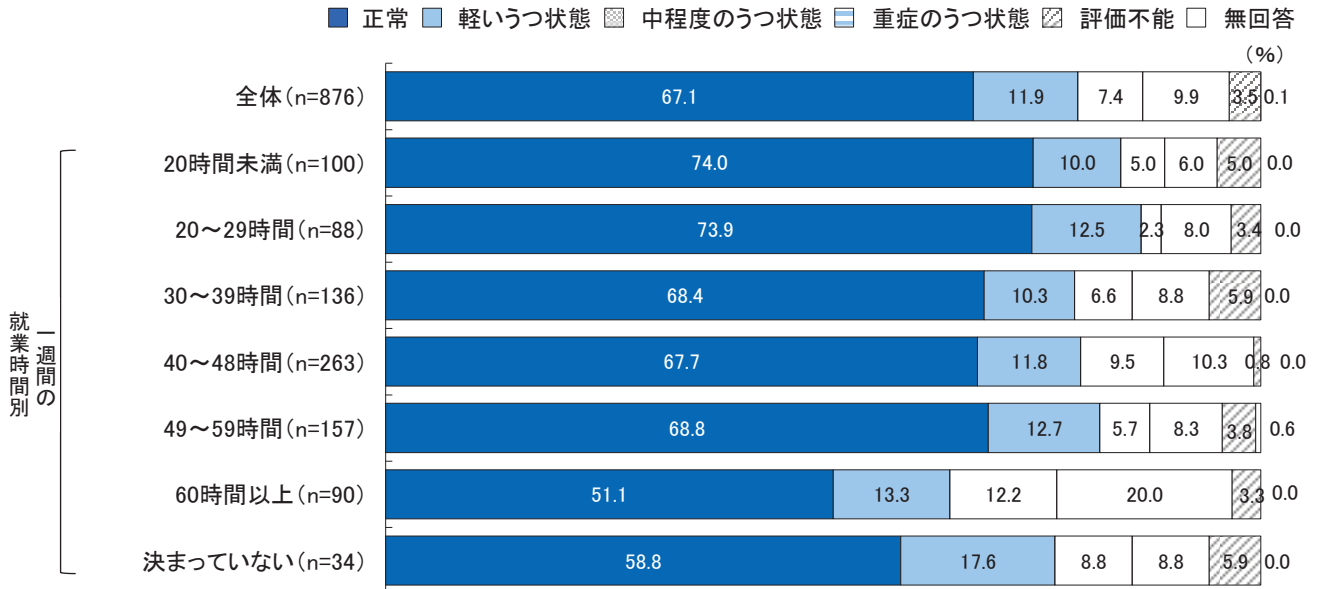
「正常」が64.5%、「軽いうつ状態」が12.7%、「中程度のうつ状態」が7.3%、「重症のうつ状態」9.7%となっている。



(1) 一週間の就業時間との関係

一週間の就業時間が「60時間以上」の層では、他の層に比べて「重症のうつ状態」、「中程度のうつ状態」の割合が高くなっている。

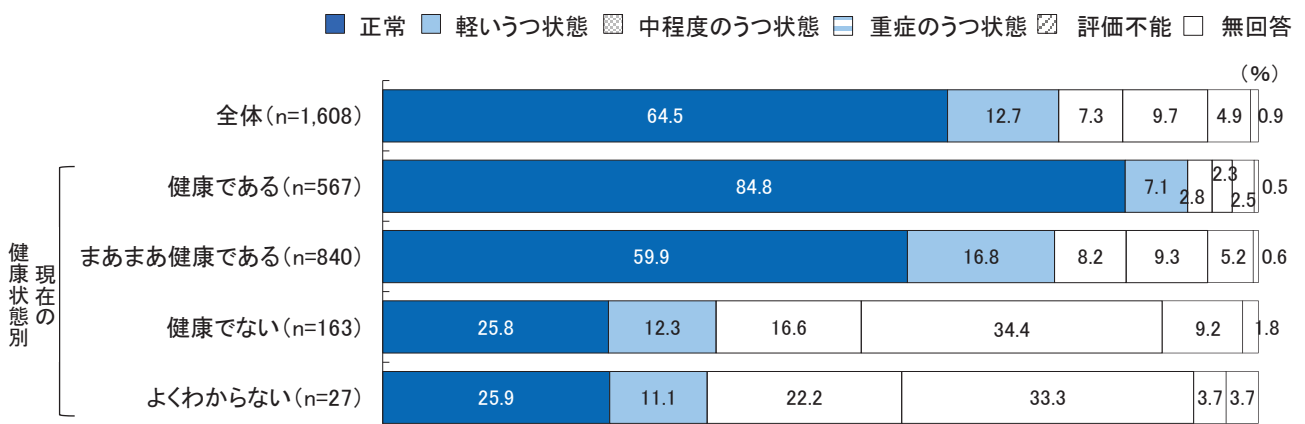
〔抑うつ尺度〕



(2) 現在の健康状態との関係

「健康でない」層では、他の層に比べて「重症のうつ状態」、「中程度のうつ状態」の割合が高くなっている。

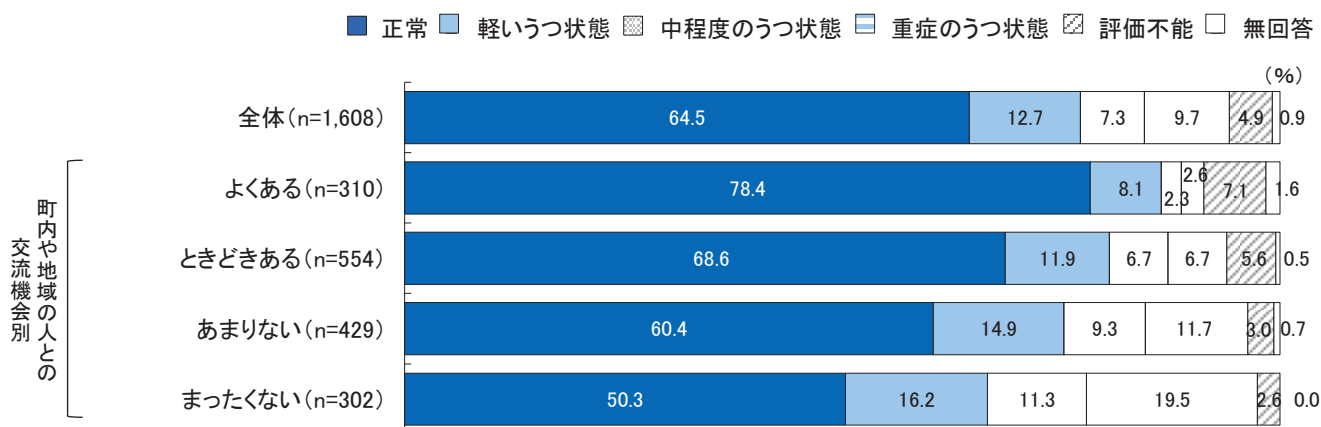
〔抑うつ尺度〕



### (3) 町内や地域の人との交流機会との関係

町内や地域の人との交流機会が少ない層ほど「重症のうつ状態」、「中程度のうつ状態」の割合が高くなっている。

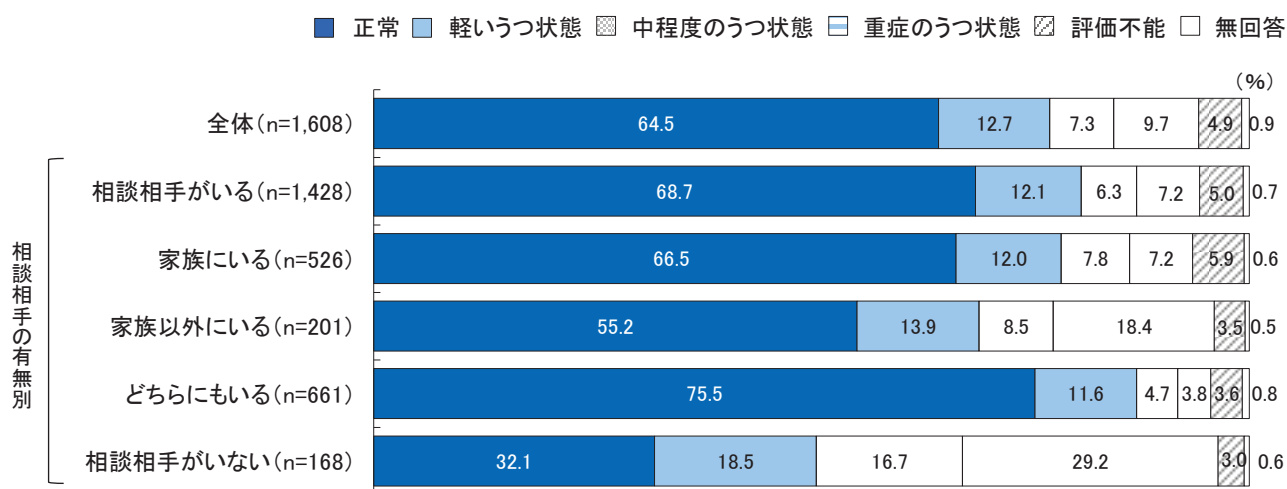
〔抑うつ尺度〕



### (4) 心配事などの相談相手の有無との関係

相談相手がない層では、他の層に比べて「重症のうつ状態」、「中程度のうつ状態」の割合が高くなっている。

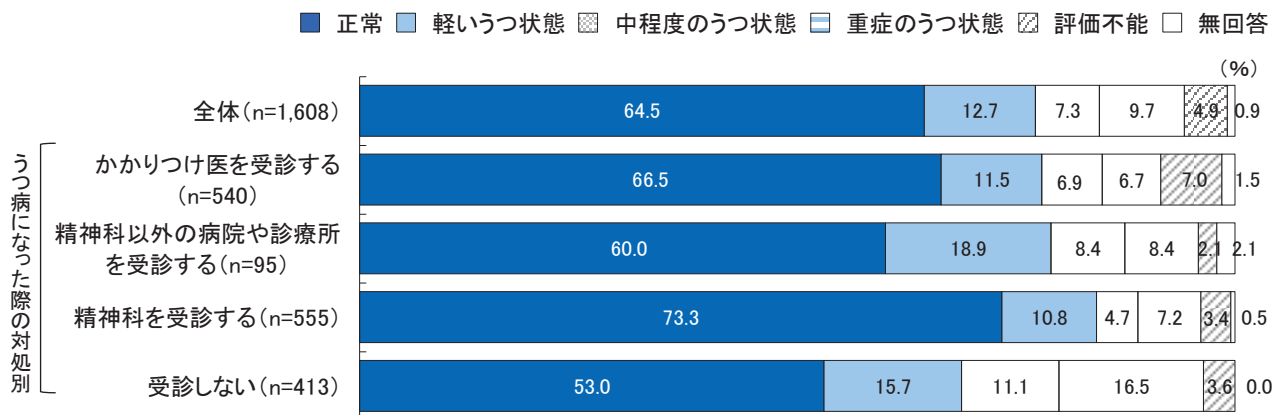
〔抑うつ尺度〕



(5) うつ病になった場合の対処との関係

「受診しない」層では、他の層に比べて「重症のうつ状態」、「中程度のうつ状態」の割合が高くなっている。

〔抑うつ尺度〕



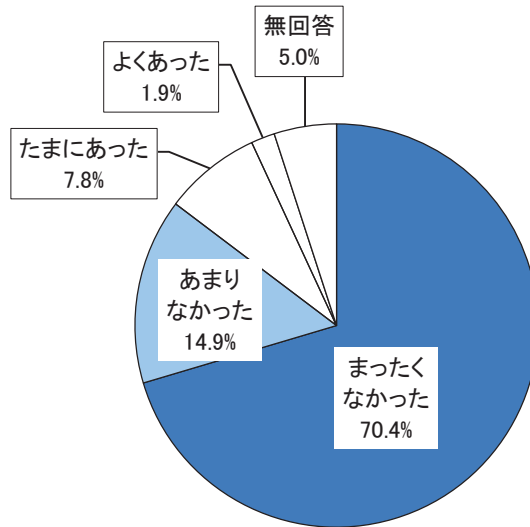
## 2 死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無

問9 あなたは、この6か月の間に「死にたい」と思うほどの悩みやストレスがありましたか。

### 【全体】

この6か月の間に死にたいと思うほどの悩みやストレスがあったかどうかについて、「まったくなかった」が70.4%と7割を占め、続いて「あまりなかった」が14.9%、「たまにあった」が7.8%、「よくあった」が1.9%となっている。

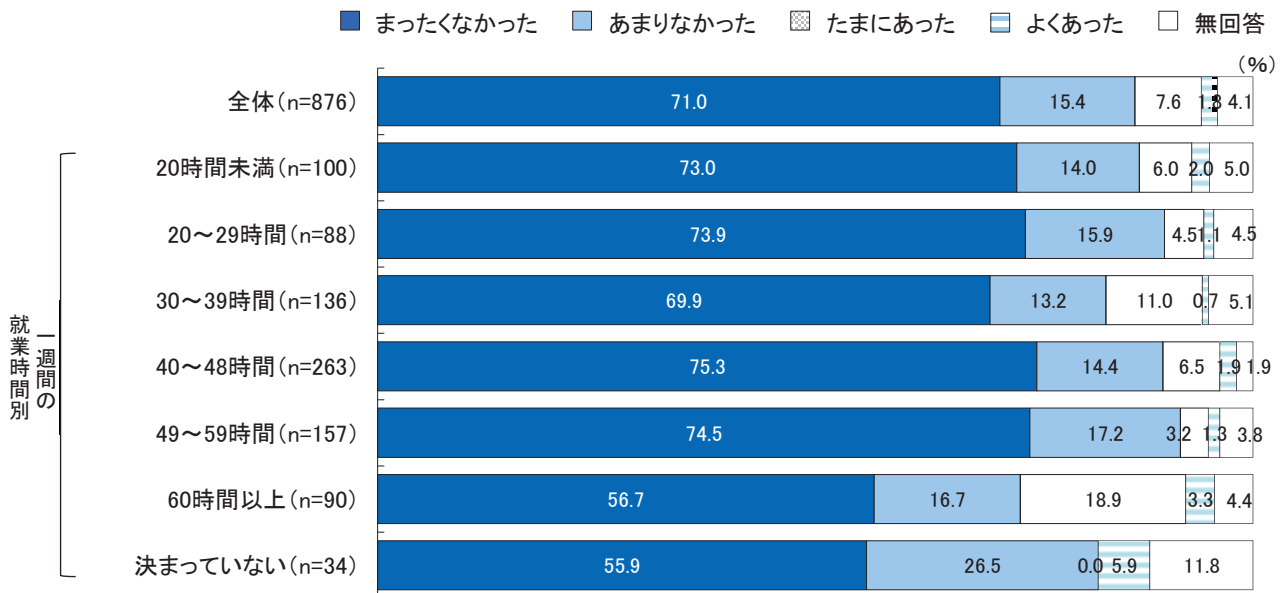
〔死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無〕 n=1,608



### (1) 一週間の就業時間との関係

一週間の就業時間が「60 時間以上」の層では、他の層に比べて死にたいと思うほどの悩みやストレスが「よくあった」、「たまにあった」と回答した人の割合が高くなっている。

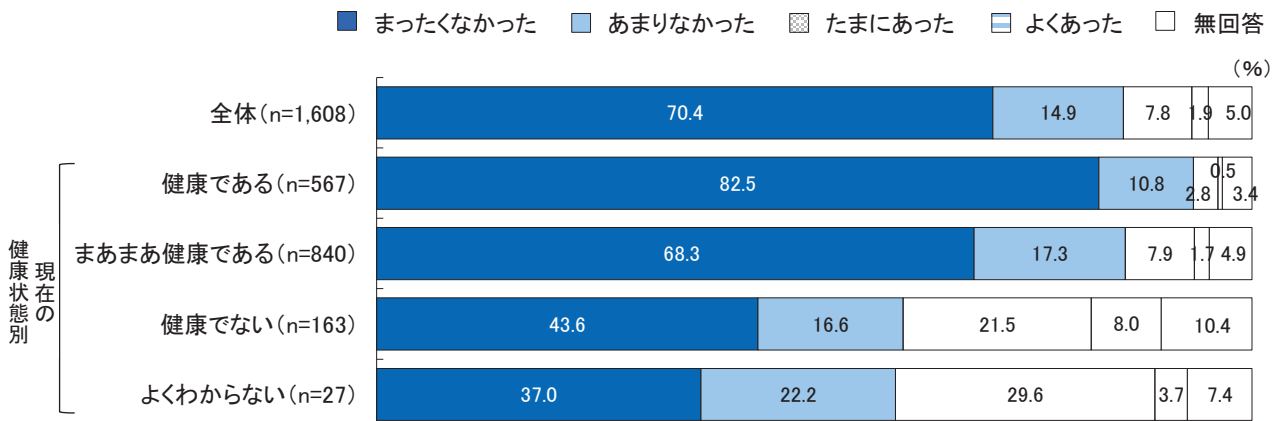
〔死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無〕



### (2) 現在の健康状態との関係

「健康でない」層では、他の層に比べて死にたいと思うほどの悩みやストレスが「よくあった」、「たまにあった」と回答した人の割合が高くなっている。

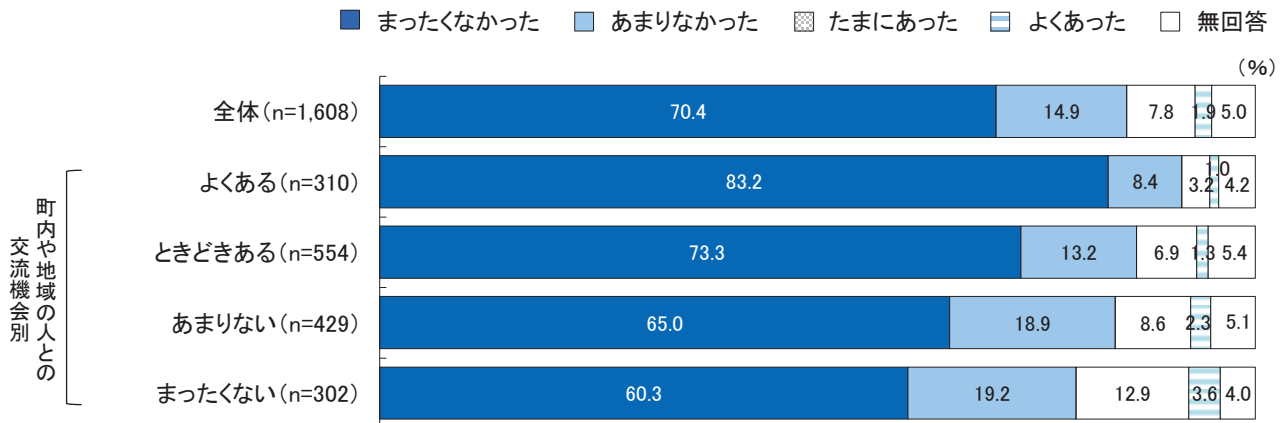
〔死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無〕



### (3) 町内や地域の人との交流機会との関係

町内や地域の人との交流機会が少ない層ほど、死にたいと思うほどの悩みやストレスが「よくあった」、「たまにあった」と回答した人の割合が高くなっている。

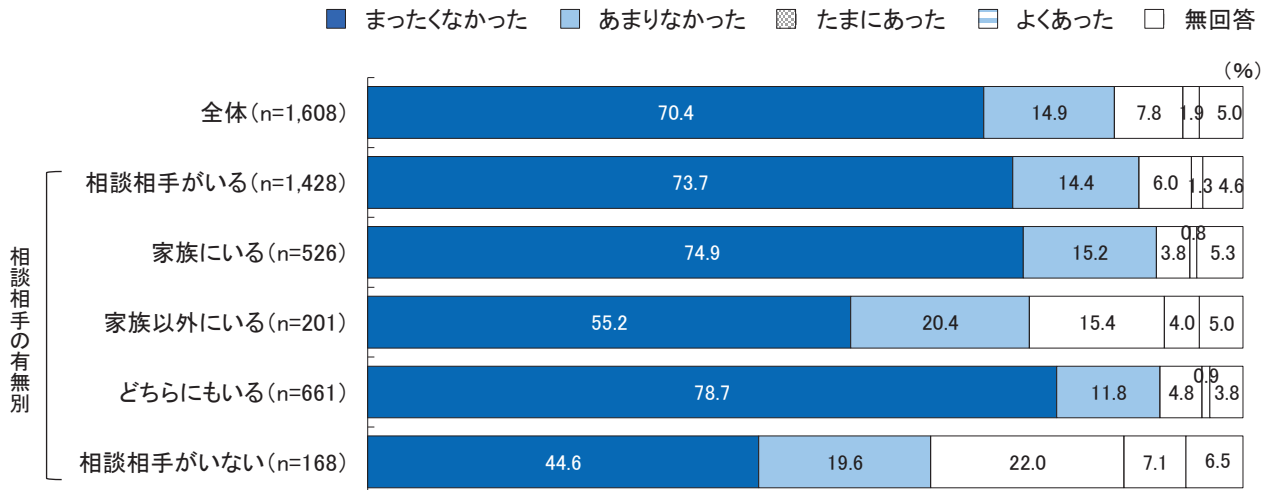
〔死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無〕



### (4) 心配事などの相談相手の有無との関係

相談相手がない層では、他の層に比べて死にたいと思うほどの悩みやストレスが「よくあった」、「たまにあった」と回答した人の割合が高くなっている。

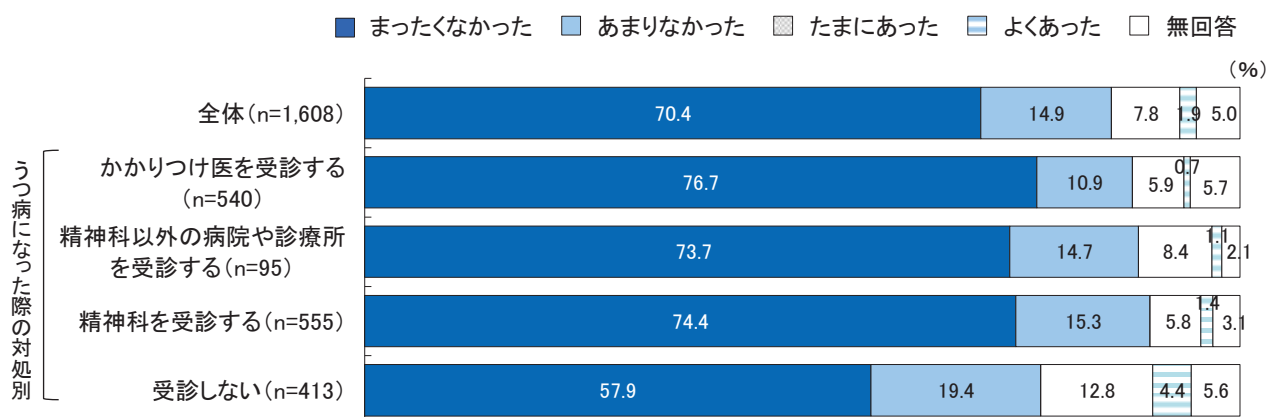
〔死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無〕



(5) うつ病になった場合の対処との関係

「受診しない」層では、他の層に比べて死にたいと思うほどの悩みやストレスが「よくあった」、「たまにあった」と回答した人の割合が高くなっている。

〔死にたいと思うほどの悩みやストレスの有無〕



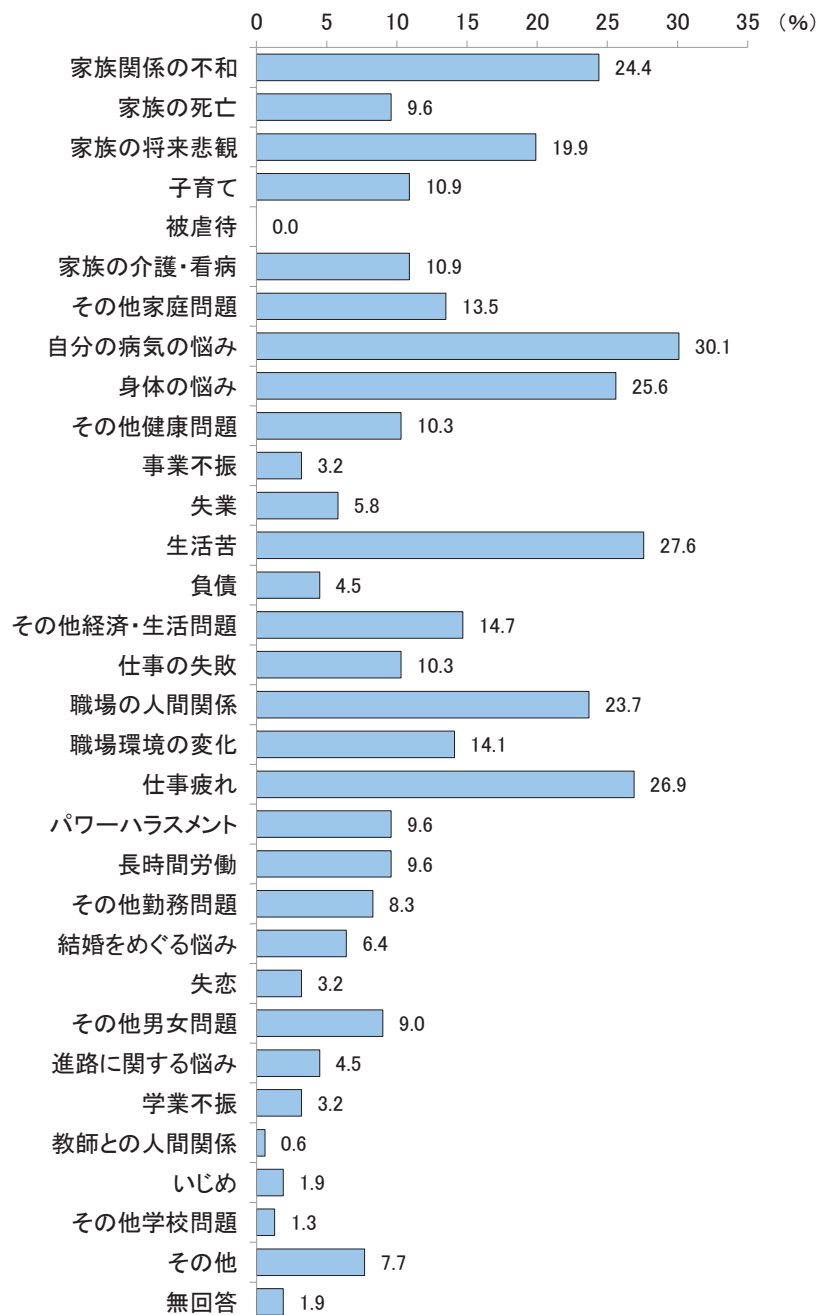


問10 《問9で「死にたい」と思うほどの悩みやストレスが「たまにあった」「よくあった」と答えた方》それは、どのような事柄が原因ですか。（この問については、次のうちからいくつでも○印をつけてください。）

【全体】

悩みやストレスの原因について、「自分の病気の悩み」が30.1%と最も高く、続いて「生活苦」(27.6%)、「仕事疲れ」(26.9%)、「身体の悩み」(25.6%)、「家族関係の不和」(24.4%)、「職場の人間関係」(23.7%)となっている。

〔死にたいと思うほどの悩みやストレスの内容〕 n=156



## 【性別】

性別にみると、「パワーハラスメント」、「職場環境の変化」、「仕事疲れ」、「家族の将来悲観」は男性で、「家族介護・看病」、「自分の病気の悩み」、「子育て」、「家族関係の不和」、「結婚をめぐる悩み」は女性でそれぞれ高くなっている。

また、上位3項目は、男性では「仕事疲れ」、「身体の悩み」、「生活苦」、女性では「自分の病気の悩み」、「家族関係の不和」、「生活苦」となっている。

〔死にたいと思うほどの悩みやストレスの内容〕

